2017 年 12 月 2 日

平成 29 年若手グループ秋季行事「特許実務の基礎知識と特許分析」報告

化学部会　若手グループ

１．概要

○ 開催日時：　平成 29 年 11 月 18 日（土）13 時 30 分～17 時
○ 開催場所：　葺手第二ビル 5 階 CD 会議室
○ 会　　費：　会員・準会員・関連学協会会員 1,000 円、その他非会員 2,000 円、学生無料
○ 参 加 者：　技術士会会員　20 名
内訳：化学 11 名、金属 2 名、応用理学 2 名、機械 2 名、
電気電子 1 名、環境 1 名、衛生工学 1 名
非会員 2 名
講師 2 名
合計　24 名

２．プログラム

○13:30～15:00　セントラル硝子株式会社 知的財産部　技術士(化学)　奥井 隆雄氏
「出願・権利化の際に知財部・弁理士とのコミュニケーションを円滑にするための基礎知識」
休憩
○15:30～17:00　株式会社富士通研究所　技術士（応用理学/総合技術監理　池田 紀子氏
「特許文書からの化学物質情報の抽出と知識化」
○17:30～　懇親会

３．費用

＜収入＞

参加費	1,000 円×20
	2,000 円×2
合　計	24,000 円

＜支出＞

なし	0 円
合　計	0 円

＜収支＞　22,000 円

４．特記事項

・奥井氏の講演は、企業知財部に所属する立場として、研究者・技術者から発明を聞き取り出願に結びつけるに際して注意をしているポイントについてのものだった。発明をいかに捉えるのか、捉えた発明と先行技術の差異をどのようにつかむのか、そして、発明が効果のあることの裏付けが示されているのかの 3 点がポイントとのことだった。
・池田氏の講演は、化学分野における特許文書を読まなければならない人々の特許文書の理解の支援と知識化のツールについての研究を紹介するものだった。化学分野の特許文書においては、異表記が多くこのことが文書の理解を難しくしている側面がある。池田氏の研究では、特許文書をコーパスとして化学物質名の対応関係を示すことができることが紹介された。また、知識化につ

いては、さまざまな化学物質がどのような性質があるのかを特許データベースから集約して表示できることが示された。

・今回２件の講演会は、研究者・技術者には馴染みのものではあるがつかみづらい特許に関するものだった。アンケートでも「非常に興味深かった」「興味深かった」を選択している人が多かった。

以　上